

途切れることのない時間の中に ～ 未来は今の自分が作っているのだよ ～

夏休みが始まって、6日が過ぎました。中体連夏季大会があり、終業式があり、藤岡祭りが…と、一学期が終わった開放感にひたっていた人も多いかと思います。そんな中でも、毎日のように部活動に参加し、来るべき新人戦に向けて、ただひたすらに汗を流し、自分の力を蓄えている子もいれば、補習に参加し、自分の学習ペースを守りながら懸命に努力する子もいました。このような日々の積み重ねが、本当に大事なことなのです。

時間はただひたすらにとどまることもなく流れていきます。鎌倉時代の随筆「方丈記」の冒頭には次のように書かれています。

「ゆく河の流れは絶えずして、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖と、またかくのごとし。」

(流れゆく川の流れは絶えることがなく、しかも、前から流れていた、もとの水ではない。流れの滞っている所にある泡は、消えたりできたりして、長い間同じ状態であることはない。世の中に存在する人や住居もまたこれと同様のことである。)

このことは、時間の流れを止めることはできず、またその流れを前に戻すこともできないことを示しています。そして、今の目の前の流れは、源流の最初の一滴からつながっていて、そして、これから先にある海へと向かってながれていきます。

このことを夏休みに例えるなら、最初の一滴は「この6日間」にあったはずである。そして夏休みの最初の一步をいかに過ごしたかによって、このあとどのように過ごせるかが決まってきます。何もしなくても途切れることもなく時間は流れます。そして、夏休みの終わりに、過ぎ去った時を取り戻せないことを知っていながらも後悔をすることは、すでに決まっているのです。だからこそ、時の流れに身を任せるのではなく、自分の意志でその川の流れを、未来に向かってすすむ時の流れを少しでもよい方向へ、明るい方向へ変えていくことが必要なのです。そして、その流れを変えるチャンスは今、ここしかないのです。

夏休みは、始まったばかりと全体の中の部分で考えるのではなく、一つの流れの中で今のがんばりが未来を決定づけていることを意識しながら、未来を見据えて、自分のできることを、一步ずつ確実に歩んでいってほしいと思います。小学生の時代に後悔は十分しているはずですからね。

全校一斉漢字テストの結果

全校一斉漢字テストの結果は大変素晴らしいものとなりました。一人一人の努力がとてもはつきりと成果として表れていたと思います。特に素晴らしいのは平均点では学年第2位であり、第1位との差は0.3点であったこと、そして満点賞は学年1位の11名もいたことです。

夏休み明けには、第2回全校一斉漢字テストが行われます。今回の勉強で成果を出せた人も、出せずに悔しい思いをした人も、さらなる向上を目指してがんばってほしいと思います。

《満点賞》

《平均点》 男子 81.9点 (第5位) 1位との差 7.4点
女子 94.7点 (第1位) 2位との差 4.7点
全体 88.3点 (第2位) 1位との差 0.3点

